

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-35705

(P2010-35705A)

(43) 公開日 平成22年2月18日(2010.2.18)

(51) Int.Cl.  
A45C 3/02 (2006.01)F I  
A45C 3/02テーマコード (参考)  
3B045

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2008-199959 (P2008-199959)  
(22) 出願日 平成20年8月1日(2008.8.1)(71) 出願人 000142746  
株式会社ケントク  
大阪府大阪市生野区巽西3丁目10番26号  
(71) 出願人 391043756  
株式会社セイバン  
兵庫県たつの市御津町室津836番地の1  
(74) 代理人 100072213  
弁理士 辻本 一義  
(74) 代理人 100119725  
弁理士 辻本 希世士  
(74) 代理人 100129975  
弁理士 上野 康成

最終頁に続く

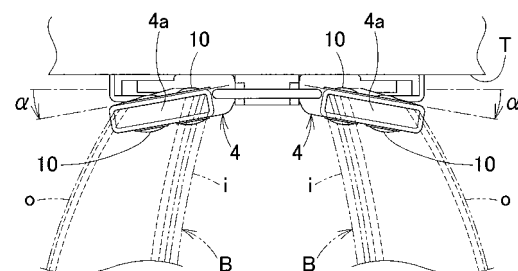
(54) 【発明の名称】 ランドセル用背負いベルト取付具

## (57) 【要約】

【課題】背負いベルトが使用者の背中に密着した状態になると共に、使用者の背中側に積極的に密着しようとする力や肩から滑りにくくするという力が働くようにして背負いベルトを取り付けることのできるランドセル用背負いベルト取付具を提供する。

【解決手段】ランドセル本体Rの背当て部Tの上部の中央部に設けられた一対の連結体3の上部にそれぞれ上に向けて挿入孔4aを開口した挿入部4を一体的に形成したものとし、前記挿入部4を背当て部Tの中心線C方向に、背当て部Tの外側から5～20度の傾斜角度αの範囲内で捻ったものとし、前記挿入部4の挿入孔4aに背負いベルトBの上端部をそれぞれ挿入して固着したものである。

【選択図】 図4



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

ランドセル本体（Ｒ）の背当て部（Ｔ）の上部の中央部に設けられた一対の連結体（３）の上部にそれぞれ上に向けて挿入孔（４ａ）を開口した挿入部（４）を一体的に形成したものとし、前記挿入部（４）を背当て部（Ｔ）の中心線（Ｃ）方向に、背当て部（Ｔ）の外側から５～２０度の傾斜角度（ $\alpha$ ）の範囲内で捻ったものとし、前記挿入部（４）の挿入孔（４ａ）に背負いベルト（Ｂ）の上端部をそれぞれ挿入して固着したことを特徴とするランドセル用背負いベルト取付具。

## 【請求項 2】

ランドセル本体（Ｒ）の背当て部（Ｔ）の上部の中央部に設けられた一対の連結体（３）の上部にそれぞれ上に向けて挿入孔（４ａ）を開口した挿入部（４）を一体的に形成したものとし、前記挿入部（４）を背当て部（Ｔ）の中心線（Ｃ）方向に、背当て部（Ｔ）の外側から５～２０度の傾斜角度（ $\alpha$ ）の範囲内で捻ったものとすると共に、背当て部（Ｔ）の前方向に、背当て部（Ｔ）の上端から３～１０度の傾斜角度（ $\beta$ ）の範囲内で傾けたものとし、前記挿入部（４）の挿入孔（４ａ）に背負いベルト（Ｂ）の上端部をそれぞれ挿入して固着したことを特徴とするランドセル用背負いベルト取付具。

## 【請求項 3】

前記連結体（３）を左右方向に揺動自在としたことを特徴とする請求項 1 または 2 記載のランドセル用背負いベルト取付具。

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

この発明は、ランドセル本体の背当て部の上部に固着されるランドセル用背負いベルト取付具の改良に関するものである。

## 【背景技術】

## 【0002】

従来、この種の背負いベルト取付具は、図 6～9 に示したように、ランドセル本体 R の背当て部 T の上部に固着されており、取付板 11 と上蓋板 12 の間に回動自在として挟持された左右一対の連結体 13 の上部にそれぞれほぼ真上に向けて挿入孔 14a を開口した挿入部 14 を一体的に形成したものである。そして、これら挿入孔 14a に背負いベルト B の上端をそれぞれ挿入して、挿入部 14 に設けたリベット孔 14b にリベット 15 を通して、背負いベルト B をリベット止めしたものである（特許文献 1）。

## 【0003】

したがって、このようにリベット止めした一対の背負いベルト B は、ランドセル本体 R からほぼ真上に向いた状態で背負いベルト取付具に取り付けられる。そのため、使用者がランドセルを背負った場合には、ランドセル本体 R が常に斜め上方に引っ張られた状態となり、背負いベルト B が使用者の背中に密着した状態に保たれることになるので、背負いベルト B が使用中にランドセルの重量により肩からずれず、ランドセルが重く感じることなく、使用感が良いものとなるとしている。

【特許文献 1】特許第 3763129 号公報（図 1、図 5、図 7）

## 【発明の開示】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0004】

ところで、ランドセル本体 R の背当て部 T は、厚手のボール紙や合成樹脂板などから形成され、容易には変形しないように構成されている。したがって、このような背当て部 T の上部に設けられた背負いベルト取付具は、その背当て部 T に固着された位置で動くことなく、またこのような背負いベルト取付具に取り付けられた背負いベルト B の取り付け方向も、その背負いベルト取付具の取り付け方向で決まってしまうため、上記したように背

10

20

30

40

50

負いベルト取付具に背負いベルト B の上端部を取り付ける工夫が必要となっている。

【0005】

しかしながら、従来の背負いベルト取付具は、背負いベルト B の上端部をランドセル本体 R からほぼ真上に向いた状態で取り付けられているため、背負いベルト B が使用者の背中に密着した状態になるものの、使用者の背中側に積極的に密着しようとする力や肩から滑りにくくするという力は働いていない。そのため、使用者が長い時間ランドセルを背負っていたり、ランドセルを背負いながら体を大きく揺すったりした場合には、背負いベルト B が肩から外れる方向（外側方向）にずれてしまい、ランドセルが重く感じることなく、使用感が良いものとなるという効果が常に発揮できなくなるという課題を有していた。

【0006】

そこで、この発明は、上記従来の課題を解決するものであり、背負いベルトが使用者の背中に密着した状態になると共に、使用者の背中側に積極的に密着しようとする力や肩から滑りにくくするという力が働くようにして背負いベルトを取り付けることのできるランドセル用背負いベルト取付具を提供することを目的としてなされたものである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

この発明のランドセル用背負いベルト取付具は、ランドセル本体 R の背当て部 T の上部の中央部に設けられた一对の連結体 3 の上部にそれぞれ上に向けて挿入孔 4 a を開口した挿入部 4 を一体的に形成したものとし、前記挿入部 4 を背当て部 T の中心線 C 方向に、背当て部 T の外側から 5 ～ 20 度の傾斜角度  $\alpha$  の範囲内で捻ったものとし、前記挿入部 4 の挿入孔 4 a に背負いベルト B の上端部をそれぞれ挿入して固着したものとしている。

【0008】

また、この発明のランドセル用背負いベルト取付具は、ランドセル本体 R の背当て部 T の上部の中央部に設けられた一对の連結体 3 の上部にそれぞれ上に向けて挿入孔 4 a を開口した挿入部 4 を一体的に形成したものとし、前記挿入部 4 を背当て部 T の中心線 C 方向に、背当て部 T の外側から 5 ～ 20 度の傾斜角度  $\alpha$  の範囲内で捻ったものとすると共に、背当て部 T の前方向に、背当て部 T の上端から 3 ～ 10 度の傾斜角度  $\beta$  の範囲内で傾けたものとし、前記挿入部 4 の挿入孔 4 a に背負いベルト B の上端部をそれぞれ挿入して固着したものとしている。

【0009】

さらに、この発明のランドセル用背負いベルト取付具は、前記連結体 3 が左右方向に揺動自在としたものとしている。

【発明の効果】

【0010】

この発明のランドセル用背負いベルト取付具は、以上に述べたように構成されているので、背負いベルトが使用者の背中に密着した状態になると共に、使用者の背中側に積極的に密着しようとする力や肩から滑りにくくするという力が働くようにして背負いベルトを取り付けることができるものとなり、使用者が長い時間ランドセルを背負っていたり、ランドセルを背負いながら体を大きく揺すったりした場合にも、背負いベルトが肩から外れる方向（外側方向）にずれてしまうことなく、ランドセルが重く感じることなく、常に使用感が良いものとなるという効果を有する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0011】

以下、この発明のランドセル用背負いベルト取付具を実施するための最良の形態を、図面に基づいて詳細に説明する。

【0012】

この発明のランドセル用背負いベルト取付具は、ランドセル本体 R の背当て部 T の上部の中央部に固着されており、この背当て部 T への取付板 1 と、この取付板 1 の空間部 S を塞いでおくための上蓋板 2 との間に左右一对の連結体 3 が左右方向に揺動自在として設けられている。そして、これら連結体 3 の上部には、それぞれ上に向けて挿入孔 4 a を開口

10

20

30

40

50

した挿入部 4 を一体的に形成したものとしている。そして、前記挿入部 4 は、背当て部 T の中心線 C 方向に、背当て部 T の外側から 5 ~ 20 度の傾斜角度  $\alpha$  の範囲内で、好ましくは傾斜角度  $\alpha$  を約 8 度にして、捻ったものとしている。

【0013】

さらに、前記挿入部 4 は、背当て部 T の中心線 C 方向に、背当て部 T の外側から 5 ~ 20 度の傾斜角度  $\alpha$  の範囲内で、好ましくは傾斜角度  $\alpha$  を約 8 度にして、捻ったものとすると共に、背当て部 T の前方向に、背当て部 T の上端から 3 ~ 10 度の傾斜角度  $\beta$  の範囲内で、好ましくは傾斜角度  $\beta$  を約 5 度にして、傾けたものとしている。

【0014】

なお、前記背当て部 T の上部とは、背当て部 T の最上端または最上端から少し下げた位置のことをいう。

【0015】

また、前記挿入部 4 は、背当て部 T の左右方向に揺動自在として取り付けしており、使用者の体格に応じて左右方向に移動できるようにしている。この挿入部 4 を左右方向に揺動自在として背当て部 T に取り付けるには、それぞれの連結体 3 を取付板 1 の空間部 S に収納し、これら連結体 3 に形成した摺動孔 5 に取付板 1 に設けた摺動体 6 をそれぞれ入り込ませ、それぞれの連結体 3 の下端に設けた軸孔 7 を取付板 1 に設けた支軸 8 に軸支している。さらに、それぞれの連結体 3 の対向側面に設けた歯合部 3a を互いに噛み合わせると共に、連結体 3 の外側面を内方向に押し付ける略 V 字状のバネ 9 を取付板 1 の空間部 S に設け、前記連結体 3 にそれぞれ内方向の弾力を付したものとしている。

【0016】

そして、前記挿入部 4 の挿入孔 4a には、背負いベルト B の上端部をそれぞれ挿入して、挿入部 4 に設けたリベット孔 4b にリベット 10 を通して、背負いベルト B をリベット止めして固着したものとしている。

【0017】

前記背負いベルト B は、厚手の皮革地や合成樹脂地からなり、上端部には弾性合成樹脂板や弾性金属板などの弾性部材を挟み込んだものとして、挿入孔 4a に挿入された場合に、この上端部が上方に向いた状態を維持し易いようにしておくのが好ましい。

【0018】

そして、この発明のランドセル用背負いベルト取付具は、上蓋板 2 に設けられたリベット孔 2a から取付板 1 に設けられたリベット孔 1a にリベット（図示せず）を貫通させ、ランドセル本体 R の背当て部 T の裏側に取り付けられる止板（図示せず）にリベット止めたものとしている。

【0019】

以上のように構成されたこの発明のランドセル用背負いベルト取付具の挿入部 4 にリベット止めされた一对の背負いベルト B の上端部は、ランドセル本体 R の背当て部 T の中心線 C 方向に、背当て部 T の外側から 5 ~ 20 度の傾斜角度  $\alpha$  の範囲内で捻った状態で背負いベルト取付具に取り付けられる。なお、前記背負いベルト B の下端部は、ランドセル本体 R の底部の固定具（図示せず）に固着された下ベルトに連結されている。

【0020】

そのため、このものでは背負いベルト B の外側端 o が、従来のものより内側に捻られ、使用者がランドセルを背負った場合には、背負いベルト B の外側端 o が内側端 i よりも使用者の背中や肩に密着することになり、背負いベルト B が肩から外れる方向（外側方向）にずれにくくなった状態で、ランドセル本体 R が常に斜め上方に引っ張られた状態となり、背負いベルト B が使用者の背中に密着した状態に保たれることになるので、背負いベルト B が使用中にランドセルの重量により肩からずれず、ランドセルが重く感じることなく、使用感が良いものとなる。

【0021】

さらに、この発明のランドセル用背負いベルト取付具の挿入部 4 にリベット止めされた一对の背負いベルト B の上端部は、ランドセル本体 R の背当て部 T の中心線 C 方向に、背

10

20

30

40

50

当て部 T の外側から 5 ～ 20 度の傾斜角度  $\alpha$  の範囲内で捻ると共に、背当て部 T の前方向に、背当て部 T の上端から 3 ～ 10 度の傾斜角度  $\beta$  の範囲内で傾けた状態で背負いベルト取付具に取り付けられる。なお、前記背負いベルト B の下端部は、前記したのと同様にランドセル本体 R の底部の固定具（図示せず）に固着された下ベルトに連結されている。

【0022】

そのため、このものでは、背負いベルト B の外側端 o が、上記のものよりさらに内側に捻られ、使用者がランドセルを背負った場合には、背負いベルト B の外側端 o が内側端 i よりも使用者の背中や肩により強く密着することになり、背負いベルト B が肩から外れる方向（外側方向）によりずれにくくなった状態で、ランドセル本体 R が常に斜め上方に引っ張られた状態となり、背負いベルト B が使用者の背中により密着した状態に保たれることとなるので、背負いベルト B が使用中にランドセルの重量により肩からずれず、ランドセルがより重く感じることなく、使用感がより良いものとなる。

【図面の簡単な説明】

【0023】

【図 1】この発明のランドセル用背負いベルト取付具を用いたランドセルの斜視図である。

【図 2】この発明のランドセル用背負いベルト取付具を正面側から見た一部分解斜視図である。

【図 3】この発明のランドセル用背負いベルト取付具を背面側から見た分解斜視図である。

【図 4】この発明のランドセル用背負いベルト取付具がランドセルの背当て部に取り付けられた状態の平面図である。

【図 5】この発明のランドセル用背負いベルト取付具がランドセルの背当て部に取り付けられた状態の側面図である。

【図 6】従来のランドセル用背負いベルト取付具を用いたランドセルの斜視図である。

【図 7】従来のランドセル用背負いベルト取付具を正面側から見た一部分解斜視図である。

【図 8】従来のランドセル用背負いベルト取付具がランドセルの背当て部に取り付けられた状態の平面図である。

【図 9】従来のランドセル用背負いベルト取付具がランドセルの背当て部に取り付けられた状態の側面図である。

【符号の説明】

【0024】

- 3 連結体
- 4 挿入部
- 4 a 挿入孔
- R ランドセル本体
- T 背当て部
- B 背負いベルト
- C 中心線
- $\alpha$  傾斜角度
- $\beta$  傾斜角度

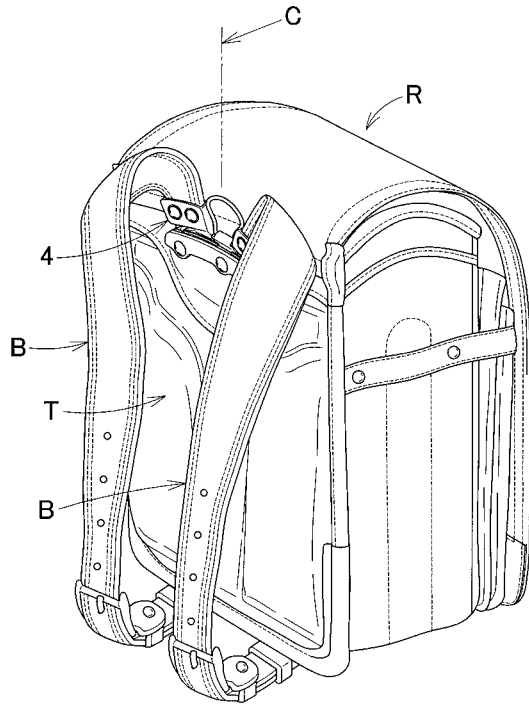
10

20

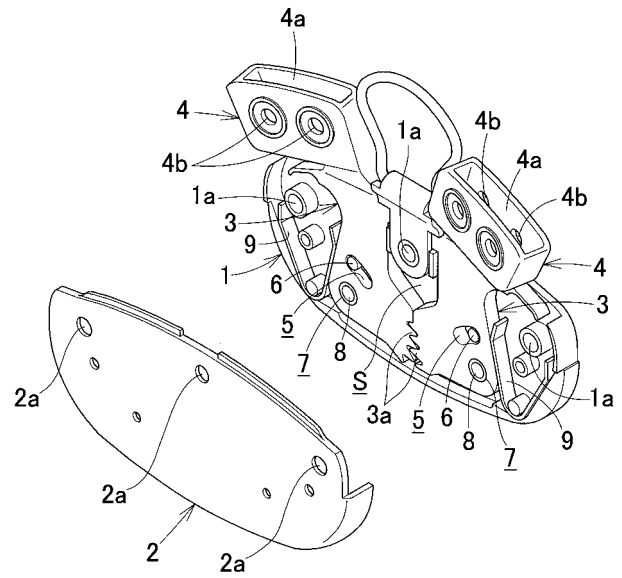
30

40

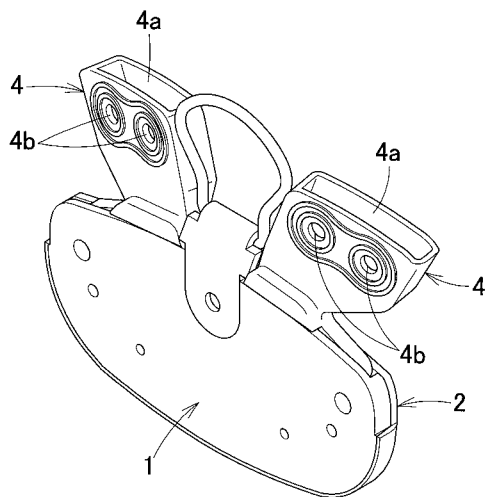
【 図 1 】



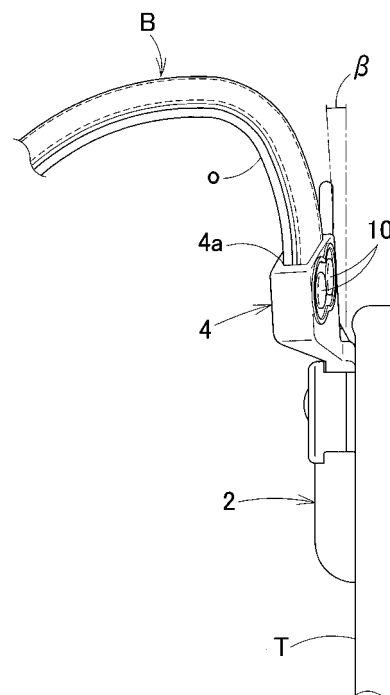
【 図 2 】



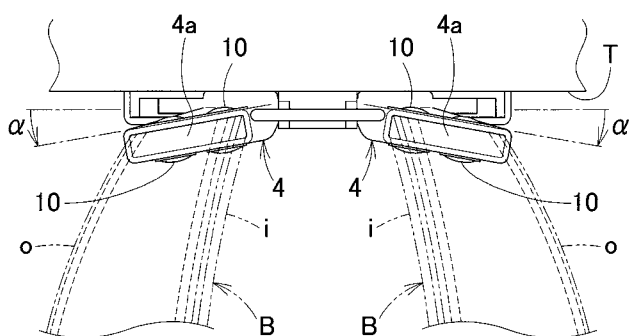
【 図 3 】



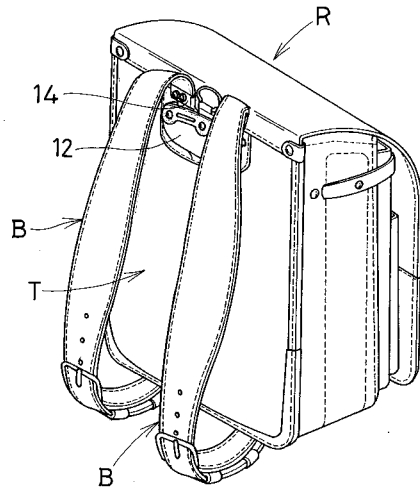
【 図 5 】



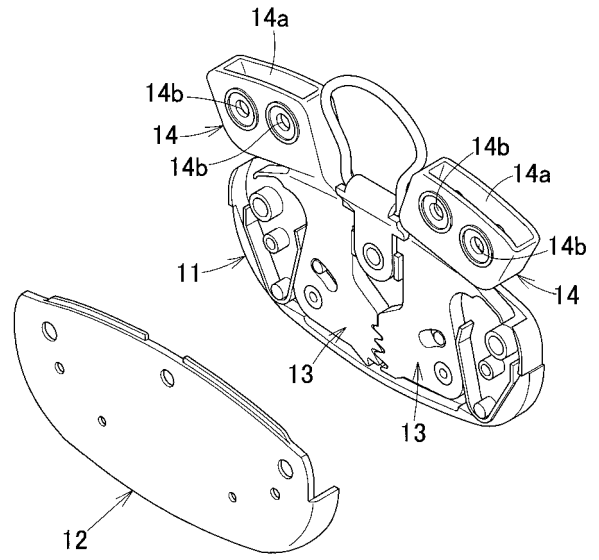
【 図 4 】



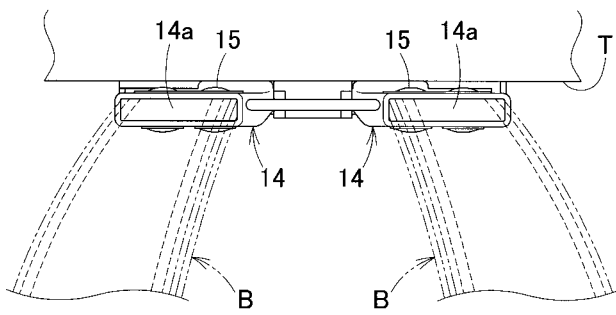
【図 6】



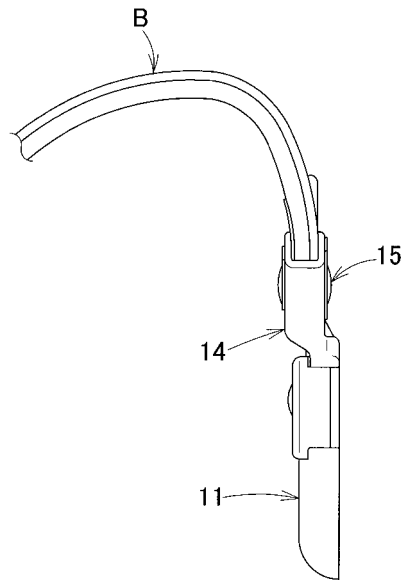
【図 7】



【図 8】



【図 9】



---

フロントページの続き

(72)発明者 縦山 哲也

大阪府大阪市生野区巽西3丁目10番26号 株式会社ケントク内

Fターム(参考) 3B045 AA24 GA03 GB02